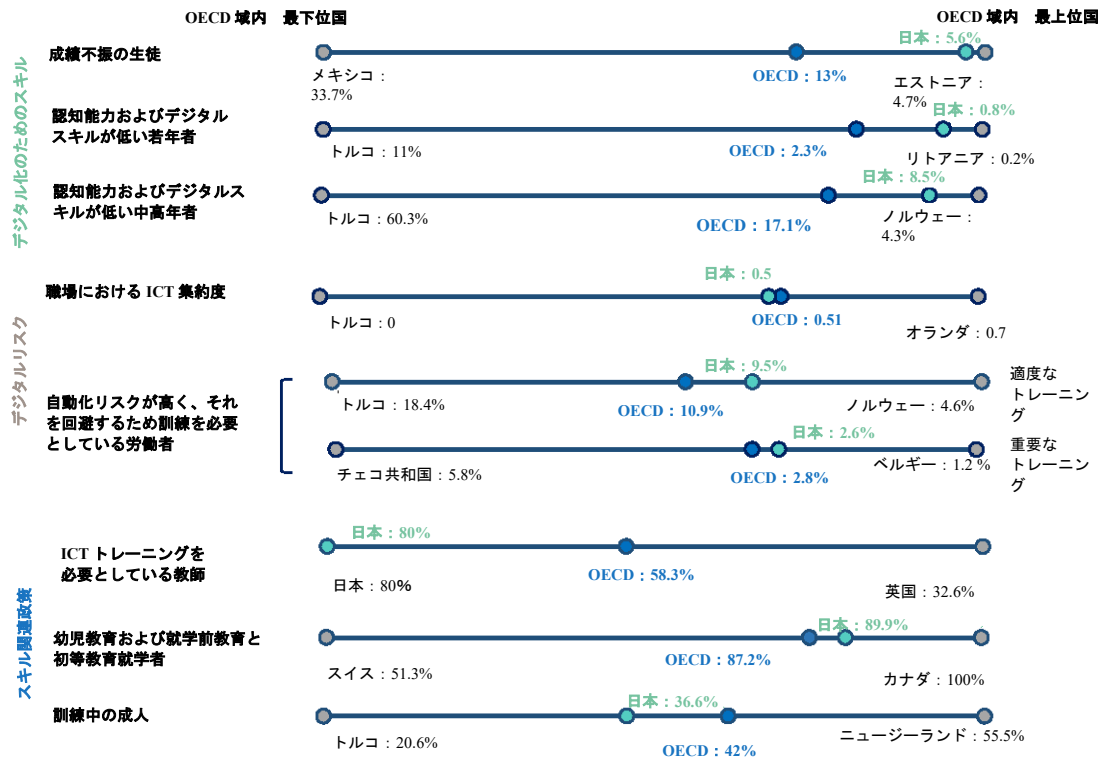


How does Japan compare?

スキル・アウトック・スコアボード – デジタル世界で成功する



注：データの読み方 成績不振の生徒：2015年のPISA学力（読解、数学、科学）調査で、成績がレベル2以下だった生徒の割合。認知能力およびデジタルスキルが低い若年者：読解力および数的思考力がレベル1以下で、かつコンピュータを使った経験がない、または2012年・2015年のICT基礎テストに不合格だった16～29歳人口の比率。認知能力およびデジタルスキルが低い中高年者：読解力および数的思考力がレベル1以下で、かつコンピュータを使った経験がない、または2012年・2015年のICT基礎テストに不合格だった55～65歳人口の比率。職場におけるICT集約度：全労働者のICT利用集約度の中央値（0～1）。自動化されるリスクが高く、それを回避するための訓練を必要としている労働者：自動化されるリスクが高い職業に就いており、リスクが低いまたは中程度の職業に移行するため、適度な訓練（1年未満）または重要な訓練（3年未満）を必要としている被雇用者の割合（上限）。ICT訓練を必要としている教師：ICTを教育に利用するための訓練がもっと必要であると述べた教師の割合。幼児教育および就学前教育と初等教育就学者：3歳（幼児教育および就学前教育）および5～15歳の就学率。訓練中の成人：過去12カ月間に公式外および非公式の学習に参加した成人の割合（国際成人力調査（PIAAC））

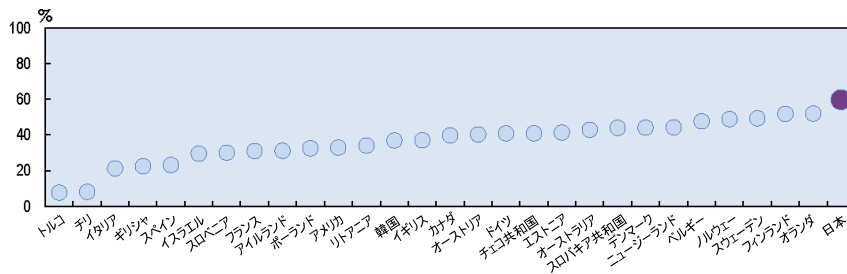
出典：スキル・アウトック 2019年版：デジタル世界で成功する <https://doi.org/10.1787/df80bc12-en>

スキル・アウトック・スコアボードは、日本のIT活用能力を評価するものである。パフォーマンスの測定は、「デジタル化のためのスキル」「デジタルリスク」「スキル関連政策」の三つの主要分野について行われる。

スコアボードを見ると、日本が正規教育で習得したスキル、および若い世代のスキルと関連性の強い指標で好成績を挙げていることがわかる。生徒の学習到達度調査（PISA）における15歳の日本人生徒のパフォーマンスはOECDの平均を大きく上回っており、国際成人力調査（PIAAC）でもパフォーマンスの低い若年者（16～29歳）は非常に少ない。しかし、職場におけるデジタルリスク、特に職場のICT集約度に関しては、日本のパフォーマンスは平均またはそれ以下となっている。また、日本では教室でICTを利用している教師はほとんどおらず、教育にICTを活用するための訓練がもっと必要であると述べた教師の割合は80%と、OECD諸国の中で最も高い値を示している。

デジタル化によって仕事の内容や日々の活動が変化した場合、幅広いスキルを持った個人の方が順応できる可能性が高い

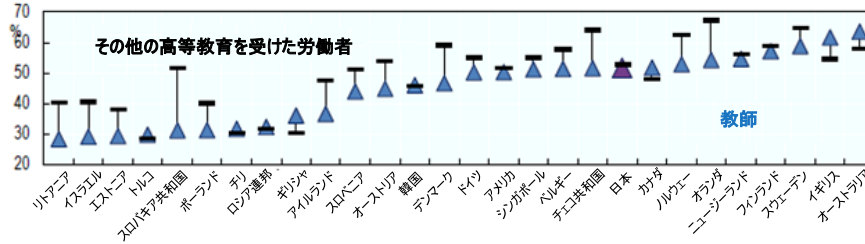
読み書きおよび計算能力でレベル3以上のスコアを記録した16~65歳の人口の割合



スキルレベルが高い人は、インターネットがもたらすあらゆるメリットを活用することができる。16~65歳の日本人の60%は読解力および数的思考力が高い（PIAACの読解力および数的思考力テストでレベル3以上を獲得）ことから、日本の人口は非常にバランスが取れていると言える。

トップレベルの問題解決スキルを持つ教師は全体的に少ない

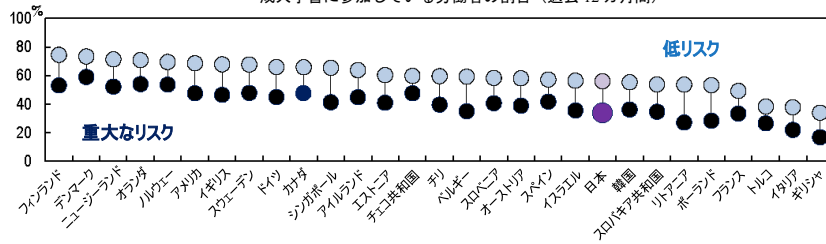
ITを活用した問題解決能力が最も高い教師および高等教育を受けた労働者の割合（国別）



一部のOECD諸国では、教師の方がその他の高等教育を受けた労働者よりもITを活用した問題解決能力が低い傾向が見られる。しかし日本では、教師の問題解決能力およびIT活用能力は、その他の高スキルの労働者と同レベルである。

自動化されるリスクが高い労働者は、訓練に参加する可能性が低い

成人学習に参加している労働者の割合（過去12カ月間）



日本では、成人学習に参加する労働者の割合はOECD平均を下回っている。また、自動化されるリスクが高い労働者およびスキルが低い労働者は、自動化されるリスクが低い労働者およびスキルが高い労働者よりも、訓練に参加する率が低い。

出典：スキル・アウトック 2019年版：デジタル世界で成功する
<https://doi.org/10.1787/df80bc12-en>